

5月沖縄現地へ!

2014年5月12日
No.192

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

闘う沖大生と断固連帯を!

全学連書記長・坂野陽平

【1】

沖大学生自治会復活会(代表・赤嶺知晃君＝法経学部2年)の仲間は、本年5月、学生自治会再建に本格的に挑戦すると同時に、それに先立ち、沖縄闘争最終日の5月19日(月)、キャンパス内集会を開催することを決断しました!

私はこの決断に応え、沖縄闘争に先立ち5月6日から現地入りし、復活会の仲間とともに日々闘い抜いています。沖大生の決意に応え、全国学友が例年をこえる規模で沖縄現地に駆けつけることを心より訴えます!

【2】

2014年沖縄闘争を、日本・アジア・世界を揺るがす大闘争として実現しよう! 「尖閣諸島への日米安保適用」や「辺野古新基地建設推進」など、対中国を念頭に日米同盟強化を謳った4・25日米首脳会談。他方で、TPP問題に見られるように、日本市場も含めたアジア市場争奪戦の主導権をめぐって日米は激しい対立を繰り広げています。日米安保体制の矛盾が激化する中、安倍政権は対米対抗性をむき出しに、昨年末の秘密保護法制定に引き続き、今国会での国民投票法改定など、改憲と「戦争のできる国」へ突き進んでいます。

11月の沖縄県知事選、年末予定の日米安保ガイドライン改定など、沖縄と辺野古新基地建設をめぐる動向は、間違いなく日本・アジア・世界の進路を問うものになっていくでしょう。そして、今国会での学校教育法改悪に伴う大学教授会権限の縮小など、安倍政権の「大学改革」とそれへの闘いが大きな政治的焦点になっていくし、私たちの力でそうしなければなりません。

まさに、改憲・戦争問題、沖縄問題、大学問題が激しく火を噴く中で、沖大生の仲間たちは、自治会建設にうって出ることを決断しました。

【3】

沖大自治会建設は、日本IBMビジネスサービス労働組合の闘いととも、戦後沖縄闘争を総括・継承しつつ、その限界性をのりこえる運動になろうとしています。換言すれば、これらの闘争をもって、1972年の「復帰」以降積もり積もった沖縄と日本の労働者民衆の怒りが爆発する過程に

入っているということです。

沖縄の本土「復帰」を前後する過程で闘われた70年安保・沖縄闘争は、言うまでもなく史上空前の大闘争でした。ベトナム侵略戦争におけるアメリカの敗戦。そして世界経済の停滞と戦後世界体制の根底的動揺の中で、多くの人々が基地撤去と日米安保粉砕は一体であること、そして日米安保粉砕とは日本帝国主義すなわち体制の打倒と一体であることをつかみ取り、人生をかけて闘いに立ち上がっていきました。以上の主張は、「沖縄奪還、安保粉砕・日帝打倒」というスローガンにまとめ上げられていきました。

入っているということです。

重要なのは一つに、先のスローガンの下、本土と沖縄の分断をうち破り、日本列島を貫く決起を実現したことです。

二つに、闘いの中心には労働組合が据わったことです。

三つに、闘いの中に大学闘争が深く位置づけられた点です。学生自治会を中心に、「大学を安保粉砕・日帝打倒の砦に!」のスローガンの下、大学闘争と安保粉砕・日帝打倒の闘いが渾然一体として展開されていったことです。

この事態に震撼した日帝支配階級は、破防法や星野文昭さんへの「無期」攻撃などの治安弾圧、本土－沖縄の分断・差別化の攻撃、労働組合・学生自治会の解体攻撃に躍起になりました。まさにこれらの点に、「復帰」以降の沖縄闘争の総括の核心点があり、沖大自治会再建でこれまでの限界性をうち破り、闘いの広さと深さを生み出そうということです。

【4】

沖大での自治会再建の動きに対し、沖大・仲地博学長は、



動労水戸が「常磐線の竜田駅延伸阻止!」のストライキを貫徹(5月10日)

「学生規則」改悪によるビラまき全面禁止、教室貸し出し拒否など徹底した弾圧体制を敷いています。たしかに仲地学長は、『オキナワを平和学する！』や『沖縄と憲法』などの本を著し、沖縄の基地反対派の「筆頭格」のように評されています。しかし、仲地学長の語る「基地反対論」の破産と学生弾圧には、必然性と連関性があります。

一つは、「沖縄自立論」「(道州制における)沖縄単独州」、あるいは「基地県外移設」を掲げ、本土の労働者民衆の決起への不信と絶望を煽り立てている点です。米軍基地撤去は日米安保粉砕と一体であり、その中身は体制打倒闘争であり、それは国際連帯闘争として実現されるほかありません。

しかし仲地学長が行っていることは、本土ー沖縄の分断を企図する支配階級への屈服であり、政府・自民党へのすり寄りと懇願であり、「オール沖縄」論とは、これを糊塗するマヌーバーでしかありません。

いま一つは、現在の情勢は1929年大恐慌から第二次世界大戦と同じプロセスをたどっていること、言い換えれば、1930年代型の時代情勢(革命情勢)への突入であり、既成左翼の「総転向」が開始されていることです。08年リーマン・ショックを契機とする世界大恐慌への突入の中、一方で、ウクライナ問題に見られるように国家間対立が軍事化・戦争化し、各国内では大失業と総非正規化が進行しています。しかし他方で、膨大な労働者階級が国境をこえて生きんがための決起を開始しています。

「資本主義の終焉」を否定し、「次なる社会の担い手」としての労働者・学生の存在と闘いを否定すること。ここから導き出される「結論」は、体制の最悪の擁護者・推進者となる以外にありません。一昔前ならまだしも、現在の激動の時代

がこれら「口舌の徒」を闘争場裏からふるい落とし、「反動への道」を用意しているのです。ここには普遍性があります。すなわちそれは、法大・田中優子総長体制であり、福島大学・中井克巳学長体制です。

私たちは、1930年代型の時代情勢とそれがもたらす「総転向」問題に対し、1～4月において、東京都知事選、3・11福島闘争、4・25法大闘争などの闘争を通して、闘争の陣形を確実に堅持しつつ、闘いの発展を切り開いてきました。

この地平の上に、沖大自治会再建を皮切りに、米軍基地撤去・安保粉砕の闘い、新自由主義大学粉砕の闘いに今こそ断固としてうって出よう！

【5】

「高額の学費と奨学金返済のためスーパーで週5日のバイトをしている」(沖大4年生の声)。さらに沖大では、4人に1人が大学を去らざるをえない現実があります。学生自治会が解体され、大学への学生の対抗力が失われる中、これらの現実がまかり通ってきたのです。たしかに一人ひとりの学生の力は弱いかもしれませんが、学生が一つにまとまれば、必ずこんな現実を変えられる。「学生はこんなちっぽけな存在じゃない！」という怒りとともに、学生自治会のもとに学生は一つに団結しよう！

最後に、「この沖大生の困難な現状こそが沖縄闘争の大発展の最深の根拠になる」と訴えます。基地建設と「振興策」は一体でしたが、「振興策」がもたらしたものは、労働者の非正規化であり、沖縄社会のさらなる貧困化でした。「全部ウソだった」のです。「基地と非正規の島」としての沖縄のすさまじい現実の中から闘いに立ち上がる沖大生とどこまでも連帯し、今次沖縄闘争に全国学友は決起しよう!!!

【当面する行動方針】

○5・17～19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止！「改憲・戦争」の安倍政権打倒！ 学生自治会を甦らせよう！

◆5月17日(土)

正午 沖縄県庁前に集合～ひめゆり平和資料館を見学

16時～ 県庁前から那覇市・国際通りデモ

18時～ 「復帰」42年5・17沖縄集会 @沖縄県青年会館・大ホール

◆5月18日(日)

午前 普天間基地と嘉手納基地を見学

14時～ 沖縄県民大会

18時～ 全国学生交流集会 @那覇市ぶんかテンフス館・4階ホール

◆5月19日(月)

12時10分～ 「沖大生の力で戦争とめよう！ 沖大キャンパス集会」



○6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※傍聴券配布のため30分前までに裁判所脇に集まって下さい